

おいしい米づくり情報

2019/04/05

第2号



庄内総合支庁 農業技術普及課

Tel. 0235-64-2103

早めの耕起と健苗育成で、初期生育の確保に努めよう

雪融けの早かった平坦部は、排水対策を徹底し、**早めに圃場を耕起**して、**乾土効果**を高め、**初期生育確保**につなげましょう。

今年は、3月末から4月初めにかけて**平年より低温**で推移しています。**水温が低いと芽切れがばらつく**場合があります。5月の第1週までは平年よりも気温が低くなる確率が高い予報となっているので、水温には引き続き注意してください。

また、**種子浸漬中の水温が15℃を超え**るとばか**苗病が出やすくなる**ので、浸種温度は10～15℃としましょう。

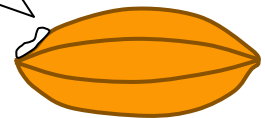
●催芽から播種時のポイント

十分に浸漬すれば、うるち品種の催芽時間は、通常 20 時間程度です。催芽は**最適な温度(30～32℃)**を保ち、芽切れ・鳩胸状態が確認できるまで行います。

例年の催芽時間にとらわれず、**90%程度の芽切れが確認**されるまで催芽を行いましょ。但し、**伸ばしすぎに注意**しましょ。

出芽の揃いを良くするために、**覆土は厚くなり過ぎないように**注意しましょ。(目安:5～7mm 程度)

芽切れ粒の割合が
90%以上を必ず確認



●育苗初期のポイント

〈表1〉 生育段階別の温度管理の目安

	出芽	緑化期 (～1.0 葉期)	硬化期 (1.5 葉期以降)
最高気温	35℃以下	30℃以下	25℃以下
最適気温	30～32℃	20～25℃	15～20℃
最低気温	—	10℃以上	5℃以上

! 光が強すぎると黄白化することがあるので注意
! 急激に温度を低下させると白化苗を生じることがあります

〈高温で経過する場合〉
日中はしや光資材をかけるだけでなく、育苗ハウスの両脇を開けて換気を行いましょ。

緑化期のマルチ除去が遅れると軟弱徒長苗の原因となります。苗の生育を見て、温暖な日に**タイミングよくマルチを除去**しましょ。

〈表2〉 マルチ除去の目安

	苗丈(cm)	葉齢(葉)
ハウス育苗	2.5	0.8
トンネル育苗	3.0	1.0



ハウス内の温度は、**温度計でしっかり確認!**
(苗の高さに設置)

プール育苗は、1.5 葉期頃から入水を開始します。床土の表面が隠れる深さに水を張り、床土の表面が出ないように管理します。ハウス内の温度は〈表1〉が目安になります。

●土づくりのポイント ～気象変動に負けない、収量・品質・食味の安定化のために～

- ・近年、「ワキ」が発生する圃場が多く見られ、このような圃場は pH が低い傾向があります。アルカリ分を含む土づくり肥料を投入して、**土壌 pH を改善(目標値 pH5.5～6.0)**し微生物の働きを高め、稲わらの分解を促進しましょう。
- ・気象変動に強い稲づくりのため、稲体のケイ酸濃度を高めましょう。**地力(CEC)が低い土壌はケイ酸供給力も低い傾向があるため、CEC25 以下の圃場から優先的に土づくりを行いましょう。**
- ・土づくり肥料はケイ酸とアルカリ分を含んでいます。土壌 pH を調べ、**目標値を下回る圃場から優先して土づくり資材を投入し(60～120kg/10a)、圃場の改善を行いましょう。**

土づくり肥料(春散布)

てんろ石灰
とれ太郎
農カアップ
天の恵み14号
ケイカル

●耕起作業のポイント ～乾土効果を高める／耕深の確保～

- ・耕起を早めに行い、作土全体を良く乾燥させましょう。**耕起後5日以上降雨がないと、土が乾燥し乾土効果により土壌中の窒素が有効化され、初期生育の確保が容易になります。**
- ・秋耕や冬期湛水に取り組んだ圃場では、明渠等で排水を図り、適期に耕起ができるように努めましょう。

＜表3＞耕起期間中の無降雨日数と乾土効果

年次	耕起期間中最大無降雨日数	乾土効果	発現量推定値 窒素kg/10a
H30	5	並～やや小さい	2.7
H29	2	小さい	0.7
H28	5	並	6.9
H27	11	大きい	8.1

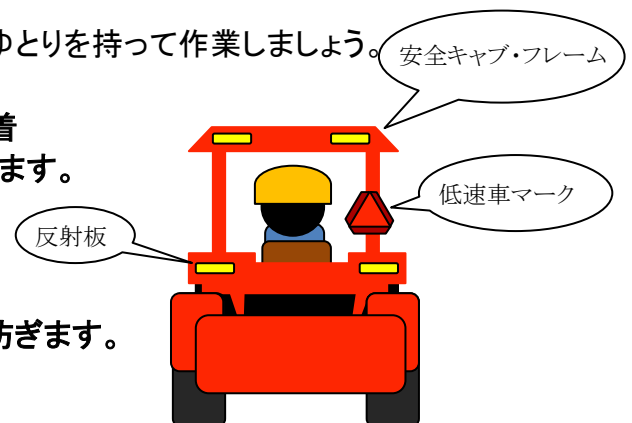
※水田農業試験場(鶴岡市藤島)

- ・**耕深 15cm を目標に耕起作業を進めましょう。**耕深の確保は、**①根域拡大と根の活力維持、②養分保持量の増加・養分供給力の増強**につながります。
- ・移植後の水持ちをよくすることは、初期生育の確保や除草剤の効果を安定させる上で大切なことです。あぜ塗り等で畦畔からの漏水を防止しましょう。

●農作業事故を防ぎましょう

トラクタでの重大事故を防ぐため、以下の点に注意して、ゆとりを持って作業しましょう。

- ポイント①:シートベルトの着用と安全キャブ・フレームの装着
転落、横転などの場合に投げ出されるのを防ぎます。
- ポイント②:路上走行時のブレーキ連結の確認
急旋回による事故を防ぎます。
- ポイント③:低速車マークや反射板の取り付け
後続車が存在に気づきやすくなり、追突事故を防ぎます。



**農作業はゆとりを持って、安全に！
農薬は、ラベルをよく読み適正に使用しましょう！**